

「小学1年生から中学3年生まで、すべての児童・生徒に的確なアドバイス」

「ただ単に『家庭学習をしましょう』と言われても、実際に何をどのように取り組んだらいいのか分からないよ」と悩んでいる子供たちのために、この冊子には小学1年生から中学3年生まで、学年および教科ごと（小学1・2年生は国語・算数の2教科、小学3～6年生は国語・算数・理科・社会の4教科、中学生は国語・数学・理科・社会・英語の5教科）に家庭学習で行うべき内容が具体的に記載されています。根

「家庭学習を始める前に、子供たちの生活習慣や学習環境をチェック」

「さあ家で勉強を始めよう」と意気込んで家庭学習に取り掛かる前に、家庭での生活習慣や学習環境を振り返る必要があります。

「寝る時間が遅い」「朝食を食べないで学校に行く」「テレビを見ながら、携帯電話を操作しながら勉強をする」といった生活習慣や学習環境は、集中力を散漫にさせ、学力低下の原因につながります。

また、子供たちは「自分は勉強ができない」と意識してしまつと、自分から机に向かつて勉強することを避ける傾向

があります。その結果、学校の勉強についていけなくなるといった、マイナスのスパイラル（連鎖）に陥ってしまうのです。

家庭学習を習慣化させるためには、勉強に向かう姿勢、つまり「生活習慣」や「学習環境」を整えることが重要です。「家庭学習のすすめ」には「テレビやゲームをする時間は決めているか」「携帯電話を使うときの約束は決めているか」など具体的な項目を掲載していますので、簡単にチェックすることができます。

気強くコツコツ実践すれば、必ず学力は向上するはずですよ。

また、学習ノートの使い方、がまだ不慣れな小学1・2年生の児童には、「家庭学習ノート」の「のれい」といった実例を掲載してノートの書き方を紹介しました。さらに、各学年で習っていない漢字は使用しないなど、言葉の表現にも配慮した内容にしましたので、誰でも利用しやすいようになっています。

今日から家での勉強はバッチリ

家庭学習のすすめ

行田市学力向上推進委員会では、「本気で家庭学習を！」を合言葉に、保護者と教師の協力を得ながら「家庭学習のすすめ」行田版モデルを作成しました。

「『家庭学習』と言われても、何をすればいいの」と悩んでいた方は、これを活用すれば大丈夫。

「家庭学習のすすめ」は行田市教育委員会ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

Interview (インタビュー)

授業で得ることができた喜びを
一過性のものにしてはいけない

子供たちは、学校の授業を理解できると「できた」「分かった」と喜びの表情を浮かべます。その喜びを「一過性のものにしたくない。家庭にもつなげていきたい」という思いから、「家庭学習のすすめ」を作成しました。この冊子を活用することで、子供たちの学びの場を充実させることができると確信しています。学校で理解してきたことを家庭でさらに深めるためには、親のサポートは不可欠です。しかし、最近は親が忙しく、子どもと関わる時間が少なくなっているようです。「家庭学習のすすめ」を参考にしながら、親子で家庭学習の方法などについてじっくり語り合ってみてください。学力が向上するだけでなく、親子のきずなが深まり、豊かな心も育まれるものと考えています。



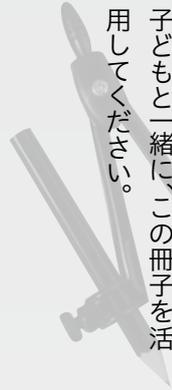
行田市教育委員会
中村 猛 教育長

「保護者も安心。子どもに対する
アドバイスが満載」

「早く勉強をしないさい」と言って、子どもに勉強することを促していませんか。しかし、子供たちにとっては、その対応は逆効果なのです。一方的に言われると、学ぶ意味や面白さを感じられなくなり、「勉強しよう」という意欲がわかなくなり、保護者の温かい助言や励ましの言葉で子供たちはやる気を起こすのです。この冊子には、「子どもがやる気になる魔法の言葉」の一例が紹介されています。

また、保護者に対しても、教科ごとに家庭学習の内容や学習時間の目安が掲載されていますので、子どもの家庭学習をバックアップすることができます。

「勉強は学校でするものだから、保護者は関わらない」という意識を持っているのは、家庭学習は定着しません。「この冊子は、家庭学習を習慣化できる絶好のチャンス」と思って、子どもと一緒に、この冊子を活用してください。



変化の激しい時代を生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、それらを活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力が求められています。それらの力を最大限伸ばすためには、家庭学習を欠かすことはできません。

学校と家庭がしっかりとスクラムを組むことで、子供たちに確かな学力とこれからの時代を生き抜く力を定着させることができます。今日から、子供たちの「生きる力」を一緒に育てていきましょう。

